

海洋活動救助マニュアル

令和8年4月1日 作成

記

1. 23F・ゴム艇によるダブルハルカヌーへの接続手順 P1
2. 救助（23F・ゴム艇による傷病者の収容）の手順 P2
3. 救助（23F・ゴム艇による落水者の救助、落水者意識なし）の手順 P3
4. 救助（23F・ゴム艇による落水者の救助、落水者意識あり）の手順 P4
5. 救助（水上バイクによる落水者の救助、落水者意識なし）の手順 P5
6. 救助（水上バイクによる落水者の救助、落水者意識あり）の手順 P6
7. 救助（転覆時による落水者の救助）の手順 P7
8. 救助（ハーバー内での落水者の救助、落水者意識あり・意識なし）の手順 P8
9. 錨泊の手順 P9

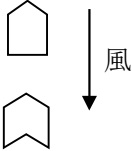
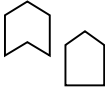

静岡県立三ヶ日青年の家

指定管理者 三ヶ日フィールドパートナーズ

◎ 用語の定義

- 23F : 青年の家が保有する動力船 ダブルハルカヌーの指揮艇として使用 (115馬力)
- ゴム艇 : 青年の家が保有する動力船 ダブルハルカヌーの救助艇として使用 (60馬力)
- 水上バイク : 青年の家が保有する動力船
- 救急機関 : 消防・救急 (119番)、警察 (110番)
- 救助所員 : 指揮艇、救助艇における操船者以外の乗船者 (救助活動を行う人)

1. 23F・ゴム艇によるダブルハルカヌーへの接続手順

<p>救助の要請</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 予想される救助 <ul style="list-style-type: none"> ・ 傷病などによる救助艇への収容 (1~2人程度) ・ 漕艇活動中止による救助艇への収容 (複数人) <p>接続の手順 (横付け)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 指揮艇は、接舷方向を艇長に連絡し、艇長は「パドルを立てる」の姿勢で待機させる 2 艇長は、準備ができれば指揮艇に無線連絡を行い、指揮艇または救助艇は、低速で原則、風下からダブルハルカヌーへ接近する。 ※ダブルハルカヌーの場合、救助者の座席の横に指揮艇を横付けする 3 1m程度間隔を開けダブルハルカヌーの横に付ける。 4 ボートフックなどを使用し、指揮艇または救助艇とダブルハルカヌーを接続する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>①</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>②</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>③</p>  </div> </div>	<p>周囲の状況を確認し、安全に行う。 風下から可能な限りカッターに接近する。</p> <p>接続時には確実にエンジンを停止する。</p> <p>接続時、指揮艇の緩衝材を降ろしておく。</p> <p>所員間で声かけを行い安全に受け渡しを行う。</p> <p>接舷側にフェンダーを設置し、センターマークを合わせて接舷する。</p>
--	---

2. 救助（23F・ゴム艇による傷病者の収容）の手順

<p>収容を必要とする場合</p> <ul style="list-style-type: none">○ 救助要請の無線連絡を受信したとき<ul style="list-style-type: none">・ 権座、その他による負傷・ 重度な船酔い、熱中症など体調不良・ 緊急なトイレ・ その他、団体による収容の要請 <p>収容の手順</p> <p>※浅瀬に近い場合や狭い場所の場合は、広く水深のある場所へ移動の指示を行う。</p> <ol style="list-style-type: none">1 低速でダブルハルカヌーの船尾又は船舷へ、風下から接近する。2 救助所員は、指揮艇または救助艇のロープを1～3m手前ぐらいでダブルハルカヌーに投げ入れる。指揮艇または救助艇を引き寄せ、ダブルハルカヌーの船首に結索する。 ※緊急時、直ちに結索を解き放すことができる状態にしておく。3 救助所員と団体指導者で要救助者の受け渡しを行う。<div data-bbox="217 1122 1098 1256" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"><p>要救助者が怪我や落水をしないように、声をかけあって安全に行う。 ※移動する際、要救助者の足元注意 受け取る側は、抱きかかえるように要救助者を受け取る。</p></div>4 収容者が指揮艇のデッキに座るなど安全確認ができたなら、指揮艇ロープを解く。5 指揮艇ロープが解けたのを確認できたなら周囲の安全を確認し、微速でカッターから離れる。6 ハーバーへ収容者を搬送する。<div data-bbox="217 1704 1050 1794" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"><p>収容が完了したことをハーバーに無線で連絡を入れ、スムーズに要救助者を団体指導者に受け渡しできるようにする。</p></div>7 全活動者安否確認8 主担当又は、現場指揮者から救助活動の完了を家責任者へ報告する。	<p>周囲の状況を確認し、適切な場所で行う。 権揃えの状態又は権の収容を指示。</p> <p>船べりから手を出さないように注意する。 船体と艇に手足を挟まれないように注意する。</p> <p>救助所員はデッキ部分に要救助者に付き添う形で座る。</p> <p>速やかにロープを船内に回収する。</p> <p>ハーバー待機所員は受入体制を整える。</p>
--	---

3. 救助（23F・ゴム艇による落水者の救助）の手順

<p>落水者の発生（落水者意識なし）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 予想される落水 <ul style="list-style-type: none"> ・艇内の移動時 ・傷病などによる監視艇への収容時 ・事故 <p>収容の手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 低速で風下から落水者の付近へ接近する。 2 救助所員は、団体指導者に状況の確認を行い、乗船者名簿と照合して落水者を特定する。さらに他艇がある場合、他に落水者がいないか乗船者名簿で確認を行う。 3 落水者の救助 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 落水者へ「大丈夫ですか、慌てないでういてまっています」 と声かけをする。→反応なし 「落水者意識なし。至急ハーバーに搬送させますのでAEDの準備と救急機関への要請をお願いします」と無線連絡を行う。 </div> 4 ボートフックなどを使い収容を試みる。 <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>収容可</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボートフックなどで指揮艇又は、救助艇に引き寄せる。 ・指揮艇又は、救助艇に引き上げる </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>収容不可</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救命浮環を持って、あるいは落水者付近に投げ入れておき、1人が入水する。 ・落水者の気道を確保する。 ・引き寄せる合図を送る。 ・操縦所員は、周囲の状況を監視しながら艇の位置を確保し合図を待つ。 </div> </div> 5 指揮艇又は、救助艇にゆっくり引き寄せる。 6 指揮艇又は、救助艇に引き上げる。 7 意識の確認、気道を確保し救命処置を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 収容が完了したことをハーバーに無線で連絡を入れ、スムーズに要救助者を救急隊に受け渡しできるようにする。 </div> 8 スロープに緊急着岸。水辺より引き上げAED および CPR 救命処置 9 救急車誘導。救急隊へ引き渡し。 	<p>周囲の状況を確認し、安全に行う。 風下から可能な限り落水者に接近する。</p> <p>救助時は原則エンジンを停止する。 指揮艇の位置や姿勢が保持できない場合は動力を確保する。</p> <p>可能な限り船上からの収容を試みる。 収容が困難あるいは指揮艇が接近できない場合は、二次災害の危険性がないと判断できる場合に限り、入水し救助を行う。</p> <p>収容は、横から行う。 プロペラの向き等に注意する。</p> <p>毛布などで保温に努め直ちに船上でも救命処置を行う。</p> <p>各艇の乗船者名簿、海洋活動実施記録表と照合する。</p>
---	--

4. 救助（23F・ゴム艇による落水者の救助）の手順

<p>落水者の発生（落水者意識あり）</p> <ul style="list-style-type: none">○ 予想される落水<ul style="list-style-type: none">・ 艇内の移動時・ 傷病などによる監視艇への収容時 <p>収容の手順</p> <ol style="list-style-type: none">1 低速で風下から落水者の付近へ接近する。2 救助所員は、団体指導者に状況の確認を行い、乗船者名簿と照合して落水者を特定する。さらに他艇がある場合、他に落水者がいないか乗船者名簿で確認を行う。3 落水者を救命浮環やボートフックを使い艇へ引き寄せる。<div data-bbox="215 772 1045 1008" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">落水者へ「大丈夫ですか、慌てないでういてまっていますか」「救命浮環（ボートフック）にしっかり掴まってください」と声かけをする。 ※しっかりつかまっているか確認し、ゆっくり引き寄せ、船内へ収容する</div>4 収容したら、落水者の健康状態など確認する。<div data-bbox="215 1153 1045 1310" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">落水者へ「大丈夫ですか、どこか怪我はありませんか」と声かけをして確認する。 「意識あり、外傷なし」</div>5 ハーバーへ収容者を搬送する。<div data-bbox="215 1422 1045 1512" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">収容が完了したことをハーバーに無線で連絡を入れ、スムーズに要救助者を団体指導者に受け渡してできるようにする。</div>6 全活動者の安否確認を行う。 ※シャワー室及び医務室の準備を依頼7 主担当又は、現場指揮者から救助活動の完了を家責任者へ報告する。	<p>周囲の状況を確認し、安全に行う。 風下から可能な限り落水者に接近する。</p> <p>救助時には確実にエンジンを停止する。 船内に収容する。出来ない場合は原則、舵をどちらかに切りプロペラ反対側の船尾から行う。 ゴム艇は、横も可。</p> <p>意識の有無、外傷の有無を確認する。 意識が無い場合は、気道を確保し救命処置を行うとともに救急機関へ要請を行う。</p> <p>救助所員はデッキ部分に収容者に付き添う形で座り、毛布などで保温に努める。</p> <p>各艇の乗船者名簿、海洋活動実施記録表と照合する。</p>
---	--

5. 救助（水上バイクによる落水者の救助）の手順

<p>落水者の発生（落水者意識なし）</p> <p>○ 予想される落水 ・艇内移動時</p> <p>収容の手順</p> <ol style="list-style-type: none">1 低速で落水者の付近へ風下より接近する。2 救助所員は、周囲の安全確認を行い、乗船者名簿と照合して落水者を特定する。乗船所員は、他に落水者がいないか乗船者名簿で確認を行う。3 落水者の救助 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>落水者へ「大丈夫ですか、慌てないでういてまっていますか」と声かけをする。→反応なし 「落水者意識なし。至急ハーバーに搬送させますのでAEDの準備と救急機関への要請をお願いします」 「救助の応援をお願いします」と無線連絡を行う。</p></div> <p>※救助所員は、他の監視艇で落水現場に急行し、二次災害の危険性が無いと判断できる場合に限り、入水してライフボードまたは船尾へ落水者を収容する。入水できない場合は、船上からライフボードまたは船尾への収容を補助する。</p> <ol style="list-style-type: none">4 ハーバーへ収容者を搬送する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>収容が完了したことをハーバーに無線で連絡を入れ、スムーズに収容者を救急隊に受け渡しできるようにする。</p></div> <ol style="list-style-type: none">5 全活動者の安否確認を行う。 <p>※シャワー室及び医務室の準備を事務室に連絡</p> <ol style="list-style-type: none">6 主担当又は、現場指揮者から救助活動の完了を家責任者へ報告する。	<p>※監視艇…水上バイク</p> <p>周囲の状況を確認し、安全に行う。 風下から可能な限り落水者に接近する。</p> <p>救助時には確実にエンジンを停止する。 収容は、必ず船尾から行う。ライフボードがある場合は、ライフボードへ行う。</p> <p>意識の有無、外傷の有無を確認する。 意識が無い場合は、収容後、船上で救命処置を行い、直ちにハーバーに戻る。</p> <p>各艇の乗船者名簿、海洋活動実施記録表と照合する。</p>
--	--

6. 救助（水上バイクによる落水者の救助）の手順

<p>落水者の発生（落水者意識あり）</p> <p>○ 予想される落水 ・艇内移動時</p> <p>収容の手順</p> <ol style="list-style-type: none">1 低速で落水者の付近へ風下より接近する。2 救助所員は、周囲の安全確認を行い、乗船者名簿と照合して落水者を特定する。乗船所員は、他に落水者がいないか乗船者名簿で確認を行う。3 落水者の救助 <div data-bbox="215 728 1045 1008" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>落水者へ「大丈夫ですか、慌てないでういてまっていますか」 「救命浮環を流しますから、近くに来たら掴んで救命浮環にしっかり掴まってください」と声かけをする。 ※しっかり掴まっているか確認し、ゆっくり引き寄せろ。 ※ライフボードを使用するときは、ライフボードに落水者を収容する</p></div> <ol style="list-style-type: none">4 収容したら、落水者の健康状態など確認する。 <div data-bbox="215 1120 1045 1276" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>落水者へ「大丈夫ですか、どこか怪我はありませんか」などと声かけをして確認する。 「意識あり、外傷なし」</p></div> <ol style="list-style-type: none">5 ハーバーへ収容者を搬送する。 <div data-bbox="215 1388 1045 1478" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>収容が完了したことをハーバーに無線で連絡を入れ、スムーズに収容者を団体指導者に受け渡しできるようにする。</p></div> <p>※シャワー・医務室の準備を事務室に連絡</p> <ol style="list-style-type: none">6 全活動者の安否確認を行う。7 主担当又は、現場指揮者から救助活動の完了を家責任者へ報告する。	<p>※監視艇…水上バイク</p> <p>周囲の状況を確認し、安全に行う。 風下から可能な限り落水者に接近する。</p> <p>救助時には確実にエンジンを停止する。 収容は、必ず船尾から行う。ライフボードがある場合は、ライフボードへ行う。</p> <p>意識の有無、外傷の有無を確認する。 意識が無い場合は、収容後、船上で救命処置を行い、直ちにハーバーに戻るとともに救急機関へ要請を行う。</p> <p>各艇の乗船者名簿、海洋活動実施記録表と照合する。</p>
--	---

7. 救助（転覆時による落水者の救助）の手順

<p>転覆の発生</p> <p>○ 予想される転覆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横波や引き波 ・曳航時 ・事故 <p>落水者収容の手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 低速で風下から落水者の付近へ接近する。 2 落水者の救助 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>落水者へ「大丈夫ですか、慌てないで落水姿勢をとってください。または艇に掴まってください」と声かけをする。 →落水者の意識の有無を確認</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>意識がない落水者を確認 →優先に救助 「落水者意識なし。救命処置をしながら至急〇〇に搬送させます」と無線連絡を行う。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 3 ボートフックなどを使い収容を試みる。 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>収容可</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボートフックなどで監視艇又は、出動艇に引き寄せる。 ・監視艇又は、出動艇に引き上げる </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>収容不可</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救命浮環を持って、あるいは落水者付近に投げ入れておき、1人が入水する。 ・落水者の気道を確保する。 ・引き寄せる合図を送る。 ・操縦所員は、周囲の状況を監視しながら艇の位置を確保し合図を待つ。 </div> </div> <ol style="list-style-type: none"> 4 合図を受けたら監視艇にゆっくり引き寄せ引き上げる。 5 主担当から指示されている場所に搬送 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>団体指導者と転覆艇の人員確認・安否確認を行う。あわせて、団体全員の人員確認を行う。 →人員確認できない場合、救急機関へ報告し艇内の搜索を依頼</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 7 主担当又は、現場指揮者から救助活動の完了を家責任者へ報告する。 	<p>※救助使用艇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・23F ・ゴム艇（2艇） ・水上バイク <p>周囲の状況を確認し、安全に行う。 風下から可能な限り落水者に接近する。</p> <p>救助時は原則エンジンを停止する。監視艇の位置や姿勢が保持できない場合は動力を確保する。</p> <p>可能な限り船上からの収容を試みる。 収容が困難あるいは監視艇が接近できない場合は、二次災害の危険性がないと判断できる場合に限り、入水での救助を行う。</p> <p>収容は、船尾又は横から行う。 プロペラの向き等に注意する。</p> <p>毛布などで保温に努め直ちに船上でも救命処置を行う。</p> <p>各艇の乗船者名簿、海洋活動実施記録表と照合する。</p>
--	--

8. 救助（ハーバー内での落水者の救助）の手順

<p>落水者の発生（落水者意識あり・意識なし）</p> <p>○ 予想される落水</p> <ul style="list-style-type: none">・ハーバー内移動時、クリートなど金具につまずく。・ハーバー内移動時、よそ見をしていた。・集合時、バランスを崩した。 <p>収容の手順</p> <p>1 救助所員は、周囲の安全確認を行い、乗船者名簿と照合して落水者を特定する。乗船所員は、他に落水者がいないか乗船者名簿で確認を行う。</p> <p>2 落水者の救助</p> <div data-bbox="215 689 1050 1086" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>落水者へ「大丈夫ですか、慌てないでういてまっていますか」 「救命浮環を投げますから、近くにきたら掴んで救命浮環にしっかり掴まってください」と指示をする。 又は、スロープが近い場合は、「スロープの方へゆっくりと移動してください」と指示をする。 ※しっかり掴まっているか確認し、ゆっくり引き寄せ、スロープ又はタラップへ移動させる。 ※スロープまで監視をしっかりと行う。 ※ボートフックや救命浮環が届かない場合は、サップを利用する。</p></div> <div data-bbox="215 1120 1050 1395" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>落水者へ「大丈夫ですか、慌てないで落水姿勢をとってください」と声かけをする。→反応なし 「落水者意識なし。至急ハーバーに搬送させますのでAEDの準備と救急機関への要請をお願いします」 「救助の応援をお願いします」と無線連絡を行う。 ※1名入水してスロープへ移動させる</p></div> <p>※周囲の安全確認を行い、入水してスロープへ落水者を救助する。</p> <p>3 収容したら、落水者の健康状態など確認する。</p> <div data-bbox="215 1585 1050 1821" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>落水者へ「大丈夫ですか、どこか怪我はありませんか」と声かけをして確認する。 「意識あり、外傷なし」又は「意識なし、外傷あり」等 ※必要に応じて応急手当・救命処置を行う。 ※スムーズに救急隊に引き渡しができるようにする。</p></div> <p>5 全活動者の安否確認を行う。</p> <p>6 主担当又は、現場指揮者から救助活動の完了を家責任者へ報告する。</p>	<p>周囲の状況を確認し、安全に行う。</p> <p>意識の有無、外傷の有無を確認する。 意識が無い場合は、収容後、直ちにハーバーで救命処置を行う。</p> <p>連絡を確実にを行う。</p> <p>各艇の乗船者名簿、海洋活動実施記録表と照合する。</p>
---	--

9. 錨泊の手順


錨泊を必要とする場合

- 錨泊が必要と判断されるとき
 - ・乗艇者救助の待機（荒天時など状況に応じて）
 - ・緊急時、湖岸への上陸を行うとき
 - ・天候の急変など、漕艇活動の継続が困難と判断され待機するとき

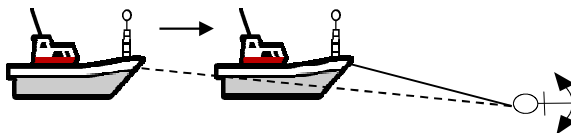
※全艇の状況を把握し、早めに錨泊を指示する。

錨泊の手順

- 1 錨泊ポイントの決定（A地点）
- 2 一丁錨の場合（船首・船尾共通）
 - ・目標地点で完全に停泊し、錨を投下して風下へ流される。

- ・途中テンションを掛けながらロープを全部出しながら調整する。
- 

- ・錨が掛かったらロープを引いてロープの長さを調整し船尾に結ぶ。



岩場が多いのでロープを全部出さないとうまく錨泊できない。
途中テンションを掛け、確実に錨打ちをする。

※二丁錨の場合（船首・船尾）

- ・船尾のロープを全部出してA地点を通過。船尾の錨を掛けたら船首の錨を投下し船首のロープを出しながらテンションを掛け船尾のロープでA地点まで引いて、それぞれ結び錨泊する。



船首の錨を早めに掛けて、船首と船尾のロープをなるべく長く均等にして錨泊する。

周囲の状況と安全確認を行う。

※複数艇が錨泊を行う場合は、艇の間隔を十分にとり錨泊する。

※ロープの長さは15メートルで統一する。

船首錨打ちは、団体指導者をお願いします。

※錨泊は船尾から行っても可とする。